

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
リハビリテーション科学特論	木村 一志	2
公衆衛生学特論	佐々木 幸子	11
研究倫理特論	木村 一志	20
プレゼンテーション技法	金谷 匡紘	27
保健福祉政策論	水本 淳	36
統計学特論	松岡 審爾	45
リハビリテーション管理学特論	大川 浩子	54
病態生理学特論	瀧山 晃弘	63
病態生理学特論演習	瀧山 晃弘	72
神経・細胞生理学特論	木村 一志	81
神経・細胞生理学特論演習	木村 一志	90
身体機能解析学特論	佐藤 明紀	99
身体機能解析学特論演習	佐藤 明紀	108
運動器障害学特論	白戸 力弥	117
運動器障害学特論演習	白戸 力弥	126
神経・発達障害リハビリテーション科学特論	横井 裕一郎	135
神経・発達障害リハビリテーション科学特論演習	横井 裕一郎	144
高齢者リハビリテーション学特論	佐々木 幸子	153
高齢者リハビリテーション学特論演習	佐々木 幸子	162
職業リハビリテーション学特論	大川 浩子	171
職業リハビリテーション学特論演習	大川 浩子	180
心身統合健康科学特論	金 京室	189
心身統合健康科学特論演習	金 京室	198
リハビリテーション科学特別研究	高田 雄一	207
教育課程・方法特論	相馬 哲也	231
教育課程・方法特別演習	佐々木 英明	240

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		リハビリテーション科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、大川 浩子、横井 裕一郎、佐々木 幸子、高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、佐藤 明紀、瀧山 晃弘、金 京室、金谷 匡紘、柴田 恵理子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」ことに特に関係がある科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。
各専門科目の基礎となる。

授業の概要

リハビリテーション医療においては近年EBM(evidence based medicine)が強く求められている。このためリハビリテーションにおける専門基礎分野、臨床応用分野及び地域健康生活支援分野の最新動向を学習し、リハビリテーション医療や福祉分野における高度専門職業人としての必須の知識と研究方法を理解する。

到達目標

標以下の3点について概説できる。

1. 専門基礎分野におけるEBM (evidence based medicine) の必要性と現状の問題点を説明できる。
2. 臨床応用分野におけるEBM (evidence based medicine) の必要性と現状の問題点を説明できる。
3. 地域健康生活支援分野におけるEBM (evidence based medicine) の必要性と現状の問題点を説明できる。

授業の方法

パワーポイントや文献・参考資料などの配布物を活用しながら、講義形式あるいはゼミ形式で進める。対面あるいはオンラインで行う。(どちらで行うかは担当教員に確認すること。)

ICT活用

授業パワーポイント資料や文献・参考資料などをGoogle Classroomにアップし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

木村は該当なし。瀧山は医師として、横井、高田、佐々木、佐藤、柴田、水本は理学療法士として、大川、白戸、金子、金谷、金、玉は作業療法士として、勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	リハビリテーション科学における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 木村 一志			
第2回	神経・細胞生理学分野における最近の研究と課題 1	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 木村 一志			
第3回	神経・細胞生理学分野における最近の研究と課題 2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 柴田 恵理子			

<p>第4回</p>	<p>高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究と課題</p>	<p>なし</p>	<p>講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			
<p>第5回</p>	<p>身体機能解析学分野における最近の研究と課題</p>	<p>なし</p>	<p>講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第6回</p>	<p>運動器障害学分野における最近の研究と課題1</p>	<p>なし</p>	<p>講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			

第7回	心身統合健康科学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 金 京室			
第8回	高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究と課題 2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 玉 珍			
第9回	職業リハビリテーション学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 大川 浩子			

第10回	神経・発達障害学分野における最近の研究と課題1	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 横井 裕一郎			
第11回	運動器障害学分野における最近の研究と課題 2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 白戸 力弥			
第12回	神経・発達障害学分野における最近の研究と課題2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 金谷 匡紘			

第13回	運動器障害学分野における最近の研究と課題 3	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 金子 翔拓			
第14回	病態生理学分野の最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 瀧山 晃弘			
第15回	高齢者リハビリテーション分野における最新の研究と課題3	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 水本 淳			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の討論への積極的な参加度(80%) レポート(20%)
その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		

適宜、文献、参考資料などを配布する。

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		公衆衛生学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
<p>授業の位置づけ ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」ことに特に関係がある科目である。公衆衛生学の基本的研究手法である疫学研究方法論について、体系的に学習するための科目である。「医療統計学特論」、「研究倫理特論」、「リハビリテーション科学特別研究」と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>授業の前半では、疫学で用いられる基本的指標、研究デザインの分類と特徴、各種バイアスといった疫学の基礎について概説する。特に運動疫学の観点から疾病予防、健康増進のために必要な知識と考え方、方法論について理解する。授業の後半では疫学的研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系について学習する。</p>							
到達目標							

公衆衛生学の基本的研究手法である、疫学の特徴、調査研究の進め方を説明できる。
 研究論文を批判的に吟味することができる。
 研究テーマに適切な研究デザインを計画、立案することができる。

授業の方法

講義の場合は主に指定教科書を使用して進める。
 講義中に課題を提示した場合は、次回授業で学生が課題内容についてプレゼンテーションを行う。
 論文抄読の場合は事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして発表課題にコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	今日の疫学的考えの位置づけと疫学的手法の概要について理解する。	指定教科書の第I章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	研究デザイン:疫学研究の分類、各手法の利点と欠点について学ぶ。	指定教科書の第II章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	文献検索:文献検索の意義と具体的手法について学ぶ。	事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>対象者のサンプリング: 研究対象者のサンプリング及びサンプルサイズの算定について学ぶ。</p>	<p>指定教科書の第3、6章を事前に読んでおくこと。(90分)</p>	<p>授業内容についてノートにまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>データの信頼性、妥当性について学ぶ。</p>	<p>指定教科書の第4章を事前に読んでおくこと。(90分)</p>	<p>授業内容についてノートにまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>疫学研究における各種バイアスについて学ぶ。</p>	<p>指定教科書の第9章を事前に読んでおくこと。(90分)</p>	<p>授業内容についてノートにまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>研究倫理:研究の倫理規範、人を対象とした医学系研究に関する倫理指針の主な規制点について学ぶ。</p>	<p>事前に配布した論文を読んでおくこと(90分)</p>	<p>授業内容についてノートにまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>統計技法:基本的な統計技法とその選択について学ぶ。</p>	<p>事前に配布した論文を読んでおくこと(90分)</p>	<p>指定した論文を読み、チェックシートに沿って発表用にまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>統計技法:基本的な統計技法とその選択について学ぶ。</p>	<p>事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>論文の抄読一1 当番の学生が指定の論文について解説する。</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>論文の抄読一2 当番の学生が指定の論文について解説する。</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文の抄読一3 当番の学生が指定の論文について解説する。</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>	<p>事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	論文の抄読—4 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	研究計画の立案と発表用資料の作成。(90分)
担当教員			
第14回	疫学研究計画立案:具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。(90分)	研究計画の立案と発表用資料の作成。(90分)
担当教員			
第15回	疫学研究計画立案:発表を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。(90分)	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表課題(80%) 授業への参加態度(20%)
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

ロスマンの疫学 第2版/Kenneth J. Rothman/篠原出版新社、医学的研究のデザイン 第4版/木原雅子他訳/メディカルサイエンスインターナショナル

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		研究倫理特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志、高岡 哲子、生駒 一憲						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「研究者に求められる基本的な研究倫理を理解し、それを遵守することができる。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。公衆衛生学特論と関連する。

授業の概要

人を対象とする研究において、研究対象者(被験者)への適切な配慮ができることが不可欠である。また、昨今、研究不正行為が次々と明らかになり、研究者の社会的信用が危機に瀕している。このような状況の中、すべての研究に従事する者は、研究倫理を身に付けることが社会的に求められている。この授業では、人を対象とするリハビリテーション部門の研究に必要な研究倫理について学修する。

到達目標

- ・研究倫理に関する基本的理解を獲得する。
- ・リハビリテーション部門における医療の質を高めるための研究倫理教育の立案ができる。

授業の方法

- ・オンライン授業で実施する。
- ・各回ともアクティブラーニング形式で、出されたテーマに対し、事前に文献に目を通し、それに基づき各自の考えを発表する。

ICT活用

日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングコースの受講により自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

木村は該当なし。生駒は医師として、高岡は看護師として、勤務した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題について講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	人を対象とする医学・生命科学の歴史と国際的な研究倫理の誕生まで	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	木村 一志		
第2回	人の身体に由来する試料を用いた研究の倫理(「人体」の法的規制、提供者からの同意取得等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	生駒 一憲		
第3回	日本における倫理ルールの中核(倫理的規制の経緯と特徴、倫理指針違反の事例等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	生駒 一憲		

<p>第4回</p>	<p>調査研究に伴う倫理的配慮(疫学研究に関するガイドライン、調査研究における被害の特徴等)</p>	<p>教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			
<p>第5回</p>	<p>臨床試験を倫理的に行うために(臨床試験のプロセスと倫理的規制)</p>	<p>教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			
<p>第6回</p>	<p>研究者としての倫理(研究成果の共有、研究成果の発表、実験終了後のデータの取り扱い等)</p>	<p>教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

第7回	研究発表の倫理と不正(典型的な不正、オーサーシップ、多重・分割投稿、不正防止の対応)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	木村 一志		
第8回	医学研究の信頼性と利益相反(研究資金と契約、利益相反の制度的管理と自主的管理) 本学における研究倫理審査の手続き	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	高岡 哲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>60</p>	<p>授業毎の出欠確認課題で評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>40</p>	<p>日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングコース(大学院生向けコース、無料)を受講し、その修了書の写しを期限までに提出すること。</p>
<p>教科書</p>		
<p>神里彩子・武藤香織編(2023)「医学・生命科学の研究倫理ハンドブック(第2版)」東京大学出版会</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>必要に応じてPDFにした資料を送るので確認すること。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		プレゼンテーション技法				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	金谷 匡紘、佐藤 明紀、金 京室、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関連し、「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる。(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。

授業の概要

自己の研究について専門外の人にも分かるよう、写真、図、表などを用いて視覚的効果のあるプレゼンテーション方法を学修する。また、日本語および英語によるプレゼンテーションについても経験する。

到達目標

自己の研究を簡潔にまとめることができる。
学会発表を想定し、写真、図、表を用いて視覚的効果のあるプレゼンテーションを日本語および英語で行うことができる。

授業の方法

各講義毎の課題で作成した資料やパワーポイントを用い、学生中心のディスカッションを交えた講義形式とする。

ICT活用

必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金谷匡紘は臨床研究および学会や論文での発表経験が豊富である。佐藤明紀は臨床研究および学会や論文での発表経験が豊富である。金京室は臨床研究および学会や論文での発表経験が豊富である。大坂隆介は臨床研究および学会や論文での発表経験が豊富である。それぞれの経験を活かして聞き手に伝わる効果的なプレゼンテーションについて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に行うディスカッションで理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション プレゼンテーションの基礎知識 (金谷)	各自が過去に行ったプレゼンテーション資料を見直しておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第2回	既存の学術論文を読み、その要旨をまとめる(佐藤)	各自、興味のある既存の論文を数編準備すること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	既存の学術論文を読み、その要旨を発表する(佐藤)	前回の講義でまとめた要旨について、発表に際し特筆すべき点を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	既存の学術論文を読み、その中で使われている図や表がどの様に効果的なのかを考える(金谷)	各自が準備した既存の論文について、図や表がどの様に扱われているのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある図を作成する(金谷)	視覚的効果のある図とはどんな図なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある表を作成する(金谷)	視覚的効果のある表とはどんな表なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第7回	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする(大坂)	過去に経験した抄読会での発表方法についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える(大坂)	過去に経験した抄読会での発表方法について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第9回	ポスターを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする(金)	過去に経験したポスター発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	ポスターを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える(金)	過去に経験したポスター発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	スライドを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする(金)	過去に経験したスライド発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	スライドを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える(金)	過去に経験したスライド発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

<p>第13回</p>	<p>自己の研究テーマについて日本語でプレゼンテーションする(佐藤)</p>	<p>日本語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第14回</p>	<p>自己の研究テーマについて英語でプレゼンテーションする(金)</p>	<p>英語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第15回</p>	<p>まとめ聞き手に分かりやすいプレゼンテーションについて再度、確認する(金谷)</p>	<p>本科目のこれまでの内容を見直しておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 金谷 匡紘</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題および準備学習の内容で評価する。
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。必要に応じて資料を配布します。		
参考文献		

特に指定しない。

履修条件・留意事項等

課題作成や文献検索、スライド作成のため、PC環境を整えておくこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		保健福祉政策論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水本 淳、生駒 一憲						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」と特に関連し、「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる(知識・技能)」とも関連する科目である。リハビリテーション分野に関わる「日本の医療政策と地域医療システム」から各自が所属する医療機関や施設の「役割」について考察する授業である。

授業の概要

我が国の保健福祉政策は、高齢者人口の急増による年金・福祉・医療・介護等の需要が増大する中、今後どのようなサービスを提供し維持するかが大きな課題となっている。この授業では、我が国の社会保障制度改革の方向性や、諸外国の医療・福祉事情、そして我が国の「地域包括ケアシステム」と「地域リハビリテーション」について理解を深める。具体的には、日本における高齢者人口の急増がもたらす年金・福祉・医療・介護等の諸問題と諸外国の医療・福祉事情について現状を理解し、日本との違いについて考察する。また、「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において臨床現場で直面する課題や今後の展望について、患者や社会政策上の視点から考察する。

到達目標

1. 我が国の医療・介護・福祉制度の仕組みについて説明できる
2. 我が国と諸外国の医療・介護・福祉制度の違いについて説明できる
3. 我が国の医療政策をめぐる課題と社会保障制度改革の方向性について説明できる
4. 「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において直面する課題や今後の展望について説明できる

授業の方法

最新の知見や学生それぞれの臨床経験を踏まえたディスカッションを交えながら講義形式で行う。

ICT活用

必要に応じてGoogle Meetを用いて遠隔授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当者の水本は理学療法士としての臨床経験や地域住民の健康増進に関わる調査経験を活かして本科目を展開する。
 担当者の生駒は医師としての臨床経験や教育経験、研究経験を活かして本科目を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中のディスカッションを通して理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 20世紀の日本の医療制度について理解する</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			
<p>第2回</p>	<p>21世紀の日本の医療制度について理解する</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			
<p>第3回</p>	<p>日本の先進医療について考える</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			

<p>第4回</p>	<p>海外の医療制度について日本との違いを考える</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 生駒 一憲</p>			
<p>第5回</p>	<p>日本の介護保険制度について理解する</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第6回</p>	<p>海外の介護保険制度について日本との違いを考える</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			

<p>第7回</p>	<p>日本の福祉制度について理解する</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第8回</p>	<p>海外の福祉制度について日本との違いを考える</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第9回</p>	<p>地域包括ケアシステムの制度および概要について理解する</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			

<p>第10回</p>	<p>現状の地域包括ケアシステムの課題とその解決策を考える</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第11回</p>	<p>各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(学生が話題を提供する)</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第12回</p>	<p>各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(#11とは異なる学生が問題を提起する)</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			

<p>第13回</p>	<p>各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(#12とは異なる学生が問題を提起する)</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第14回</p>	<p>種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(学生が話題を提供する)</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>第15回</p>	<p>種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(#14とは異なる学生が話題を提供する)</p>	<p>講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)</p>	<p>講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 水本 淳</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内に提示する課題を評価する
その他	50	授業中に行うディスカッションへの参加や発言の内容を評価する
教科書		
指定しないが、必要に応じてインターネット検索を指示する		
参考文献		

指定しないが、インターネットや雑誌等で検索できるようにしておくこと

履修条件・留意事項等

インターネット環境を整えておくこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		統計学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

リハビリテーション分野に関する各専門知識の根拠を示すために用いられている統計解析法を修得するための科目である。ディプロマ・ポリシー「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係する科目である。

授業の概要

研究で得られた事象に対してある判断を下すときには、統計学の理論を用いた普遍的な判断基準が必要不可欠である。本講義では統計学の主要概念、基礎理論、医療系科学領域の研究に用いられる統計解析方法について学習する。また、研究課題に適した統計解析方法を選択し、統計解析ソフトを駆使して分析し、結果を正しく解釈する方法を学習する。

到達目標

1. データを適切に取り扱い、データの視覚化や要約統計量の計算ができる。
2. 統計的推測に必要な確率論と基本的な確率分布、および統計的推定、仮説検定の基礎を説明できる。
3. さまざまな課題に適した統計解析法を選択できる。
4. 統計ソフトを用いて統計解析を適切に行うことができ、その結果を正しく解釈することができる。

授業の方法

リアルタイムでオンライン授業を行う。パワーポイントと配布印刷物を使用して質疑応答をまじえながら講義形式で行う。4回目以降は統計ソフト(R)を使用する実技も行う。

ICT活用

Google Formを用いて宿題、振り返りシートを提出させるとともに、質問事項への対応を行う。また、リアルタイムのオンライン授業であるため必然的にICTの活用を伴う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出物に対するコメントを返す。特に統計解析の実践をおこなう宿題の場合はその方法、結果の解釈について適切かどうかコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>【統計の基礎①】・データを測る尺度を理解する。 ・データの様子を把握するための手法である記述統計(度数分布、代表値、散布度)について学ぶ。 ・確率変数と確率分布を理解する。『遠隔』</p>	<p>記述統計についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>【統計の基礎②】・標本から母集団の母数(母平均、母分散など)を予測する手法である統計的推定について理解する。ここでは母平均、母分散の点推定を学んだのち、標本平均の分布、標本分散と不偏分散との違いを理解する。『遠隔』</p>	<p>点推定、標本平均の分布、および標本分散と不偏分散についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>【統計の基礎③】統計的推定における母平均や母分散の区間推定について理解する。主張したい仮説を検定する手法である統計的検定の考え方を学ぶ。『遠隔』</p>	<p>区間推定、統計的検定についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>【関連2群の差の検定】関連2群の比較を行うために必要な検定(正規性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の関連2群の差の検定)の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>関連2群の差の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>【独立2群の差の検定】独立2群の比較を行うために必要な検定(等分散性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の独立2群の差の検定)の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>独立2群の差の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>【2変数の関連の強さ】2つの変数の間の関連の強さを大小関係にもとづいて求める相関係数について理解する。また、2つの変数の大小関係のみならず、値そのもの的一致度である級内相関係数、カッパ係数について理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>相関係数についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>【効果量と検定力分析】近年、帰無仮説検定のみに依存した従来の統計手法から効果量を重視する方向での統計改革が起こっている。効果量とはなにかを概説し、2群の差の検定における効果量を理解する。また、効果量をもとにして検出力や標本サイズの算出を行う検定力分析について学ぶ。また、統計ソフト(R、GPower)を用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>効果量と検定力についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>【1要因の多群間の比較】1要因の多群の比較を行うための検定を関連がないデザインと関連があるデザイン(反復測定)について学ぶ。また、多重比較の考え方、多重比較における様々な手法について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに、反復測定における研究デザインについて理解する。『遠隔』</p>	<p>1要因の多群間の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>【有意水準の調整法】反復測定された要因の多重比較では、関連のないデザイン時のような多重比較法が適用できないため、有意水準を調整して2群間の検定を行う必要がある。ここでは様々な有意水準の調整法を学ぶ。 【2要因の計画と分散分析①】2要因とも独立な場合の繰り返しのある二元配置分散分析について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>有意水準の調整法、2要因とも独立な場合の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>【2要因の計画と分散分析②】1要因が反復測定の実験計画の二元配置分散分析および2要因とも反復測定の実験計画の二元配置分散分析について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに研究デザインにおける偽実験計画と真の実験計画について理解する。『遠隔』</p>	<p>反復測定を含む2要因の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>【出現頻度の比較(分割表の検定)】2つの名義尺度で各要因が2分類されているとき要因間の関連の有無を度数から調べる2×2分割表の検定(カイ2乗検定、フィッシャーの直接確率法、マクニマー検定)について学ぶ。また、名義尺度または順序尺度の2要因(変数)で少なくとも1つの要因が3分類以上のとき変数間の関連の有無を度数から調べるm×n分割表の検定についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。 【単回帰】1つの目的変数を1つの説明変数で予測する式を求める単回帰について学ぶ。『遠隔』</p>	<p>分割表の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>【多変量解析①重回帰分析】1つの目的変数を複数の説明変数によって予測する式を求めたり、説明変数に対する独立変数の影響の度合いを解析する方法である重回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>重回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>【多変量解析②多重ロジスティック回帰分析】目的変数がYesかNoか等の質的な変数に対して、複数の説明変数の影響の度合いを解析したり、説明変数から目的変数を求める予測式を求める方法である多重ロジスティック回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>多重ロジスティック回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>【多変量解析③主成分分析】調査・測定によって得られた複数の変数をなるべく少数の合成変数に統合して表し、統合された変数の解釈や個々の個体の特徴を評価する分析法である主成分分析を学ぶ。 【多変量解析④線形混合モデル】反復測定されたデータや階層構造を持つデータの分析に用いられる線形混合モデルを理解する。いずれも統計手法統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>主成分分析、線形混合モデルについてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>【多変量解析⑤因子分析】調査・測定によって得られた複数の変数から、その背後にある潜在変数をあぶり出す分析法である因子分析および分析の注意点について学ぶ。また、確認的因子分析(因子の意味を最初から仮定して分析)である共分散構造分析の概略を学ぶ。統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』</p>	<p>因子分析、共分散構造分析についてあらかじめ調べておく(90分)。</p>	<p>ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度55点
その他	45	毎回の宿題45点
教科書		
なし		
参考文献		

真に役立つ研究のデザインと統計処理／関谷昇／三輪書店
伝えるための心理統計／大久保街亜、岡田謙介／勁草書房

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		リハビリテーション管理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子、大森 圭、生駒 一憲、杉原 俊一						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる。(関心・意欲・態度)ことと特に関係がある科目である。また、「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」こととも関係する。</p>							
授業の概要							
<p>患者に安全・安心な医療を提供するには、経営の合理性と臨床的な合理性の両立が必要である。このため昨今、医療現場における経営の視点が重要視され、職種に関わらず医療に携わる者は、それぞれの立場で現場の運営を効率的かつ円滑に遂行することが求められている。効率的な組織運営に不可欠なマネジメントの視点により、医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団の関わり、患者中心のチーム医療の重要性等について学ぶ。</p>							
到達目標							

医療機関や福祉施設等、組織の中でのチームをまとめる管理者として必要な能力を身につけ実践することができる。

授業の方法

- ・オンライン授業で実施する。
- ・各回ともアクティブラーニング形式で、指定されたテーマに対し、各自の考えを発表する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大森、杉原は理学療法士として、生駒は医師として、大川は作業療法士としての病院勤務の経験を生かし、管理者を目指した授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

課題については随時フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション マネジメントとは何か。リハビリテーションの現場(医療・福祉)における管理者が行うマネジメントについて学ぶ。	シラバスを参照して事前学習をしておくこと(90分)。	次回の発表準備を行うこと(90分)。
担当教員	大川 浩子		
第2回	第1回の講義を踏まえ、自施設におけるマネジメントについて発表する。	発表準備を行うこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	大川 浩子		
第3回	コミュニケーションとリーダーシップについて考える。第11回の基礎となる概念を学習する。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	大川 浩子		

<p>第4回</p>	<p>職場におけるメンタルヘルス対策について学ぶ。関連法規に加え、自施設における予防から復職のための支援体制まで考える。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 大川 浩子</p>			
<p>第5回</p>	<p>ありたい人と組織の姿はどのようなものか？リハビリテーション部門における組織化～職員配置と業務の組織化、部門別体制と病棟・疾患別体制、質的管理のための体制づくりを考える。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 杉原 俊一</p>			
<p>第6回</p>	<p>病棟・施設業務・事業管理～①急性期、②回復期、③地域包括医療病棟、④訪問・通所系、⑤地域リハビリテーション支援などについて、関係するステークホルダーとの情報共有と多職種連携の重要性を理解し、多職種協働で取り組む際の課題を考える。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 杉原 俊一</p>			

<p>第7回</p>	<p>どのように人の維持を行うか？人事労務管理(人事計画と職員管理、人事考課制度とその活用、年間計画に基づく個人目標の管理等)を考える。また、リハビリテーション部門の収益管理と関連する、労働条件、就業規則、働き方関連法案なども検討する。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>	<p>杉原 俊一</p>		
<p>第8回</p>	<p>リハ部門の教育システム(1)。医療職全体における継続教育を概観し、PT・OT・STが獲得すべき能力についてとくに新人教育について考える。</p>	<p>自施設の新人教育について説明できるように準備すること(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>	<p>杉原 俊一</p>		
<p>第9回</p>	<p>リハ部門の教育システム(2)。中間管理職の育成のための教育を考える。これからの臨床実習(患者担当型から診療参加型実習)について対応方法を考える。</p>	<p>自施設での実習指導に関する体制とその課題について説明できるように準備すること(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>	<p>杉原 俊一</p>		

<p>第10回</p>	<p>どのように人の活躍を促すか？リハビリテーション部門におけるリーダーシップとマネジメント、リハ科をリードするために必要なスキル、他部署との関係づくりには何が必要かを考える。あわせて、より質の高いリハビリテーションを提供するために、チームの機能に応じたチームマネジメント、効率的な会議運営について考える。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>次回の発表について準備する(90分)。</p>
<p>担当教員 杉原 俊一</p>			
<p>第11回</p>	<p>5～10回までに学んだことを踏まえ、人事体制をどのように整備するか？リハビリテーション科の管理者に求められることについてプレゼンテーションする。</p>	<p>発表準備をする(90分)。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>
<p>担当教員 杉原 俊一</p>			
<p>第12回</p>	<p>医療機関におけるリスクマネジメント、リハビリテーション部門における事故対応および苦情対応、リスクマネジメント教育について考える。</p>	<p>講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。</p>	<p>次回の発表準備を行う(90分)。</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			

第13回	第12回の講義内容を踏まえ、各自の所属施設における事例を発表する。	発表準備を行う(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	大森 圭		
第14回	病院機能評価を理解し、リハビリテーションにおける医療の質について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	次回の発表準備を行う(90分)。
担当教員	生駒 一憲		
第15回	第14回の講義内容を踏まえ、各自の所属施設における事例を発表する。	発表準備を行う(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	生駒 一憲		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業毎における課題とディスカッション(100%)
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

必要に応じ紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		病態生理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
<p>リハビリテーション分野に関する専門の知識や技術を醸成するため、学部境域で学んだ基礎医学の知識をさらに発展させ、研究を行う上で必要なリハビリテーション医学と関連の深い疾患の最新の病態生理学を学び、大学院での今後の研究を実施するのに役立ち、将来的に職場や地域社会に貢献する能力を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。」に関連する。「生命科学特論」に関連し、「病態生理学特論演習」や「神経生理学特論ならびに演習」、「運動器障害学特論ならびに演習」、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーション医学と関連の深い神経系や運動器系などを含む全身諸臓器について、それぞれを構成する細胞・組織の発生からその形態的・機能的特徴について、分子・細胞レベルから組織・臓器レベルまでを学び、各臓器への基礎医学的な理解を深め、それぞれの臓器での各種疾患の病因や病態生理を学習する。さらに機能回復に向けた治療の現状や再生について基礎医学的観点から学習する。</p>							
到達目標							

1. 中枢神経系および末梢神経系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的神経疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。
2. 骨・関節・筋など運動器系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的運動器疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。
3. 上記のほか全身諸臓器の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。

授業の方法

オンライン授業を実施する。
必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>【病理学総論1.「病理学とは」】 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>【病理学総論2.「細胞傷害」】 細胞傷害の種類やその機序を学ぶ。また傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>【病理学総論3.「先天異常」】 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形について学ぶ。染色体異常とその代表的疾患として、常染色体の異常によるダウン症候群や、性染色体の異常によるクラインフェルター症候群、ターナー症候群などを学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>【病理学総論4.「循環障害」】 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>【病理学総論5.「炎症」】 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。急性炎症の結果としての膿瘍や蜂窩織炎、肉芽組織など、及び慢性非特異性炎症と肉芽腫を形成する特異性炎症との違いについて学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>【病理学総論6.「免疫異常とアレルギー」】 免疫と免疫系の細胞、I型からV型までの各種のアレルギー反応、臓器移植と拒絶反応、先天性免疫不全症と後天性免疫不全症候群(AIDS)、臓器特異的自己免疫疾患や膠原病などについて学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>【病理学総論7.「感染症」】 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、病原体に対する宿主の反応、病原性と増殖速度、日和見感染、病原体の感染経路、内因性感染症と外因性感染症、劇症型感染症などについて学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>【病理学総論8.「腫瘍」】 腫瘍の概念や分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いとその形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断、治療法などについて学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>【病理学各論1.「心臓の疾患」「脈管系の疾患」】 狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心筋炎と心筋症、リウマチ熱と感染性心内膜炎、心弁膜症、心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの先天性心疾患、心不全、動脈瘤、動脈硬化症、血管炎などについて学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>【病理学各論2.「造血系・リンパ系の疾患」】 巨赤芽球性貧血など各種の貧血、血液凝固因子や血小板の異常による出血性疾患、白血病、多発性骨髄腫などの形質細胞性腫瘍、各種の悪性リンパ腫、リンパ節炎など、その他の造血系・リンパ系疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>【病理学各論3.「呼吸器系の疾患」】 扁桃炎やアデノイド肥大、鼻咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など上気道の疾患、慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺塞栓症などの肺血管疾患、肺炎、抗酸菌感染症、肺癌とその主な組織型、その他の肺疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>【病理学各論4.「消化管の疾患」】 白板症や口腔癌、歯原性腫瘍などの口腔・顎部の疾患、胃食道逆流症、食道静脈瘤、食道癌などの食道の疾患、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌、胃の悪性リンパ腫など胃の疾患、炎症性腸疾患や大腸癌など小腸・大腸の疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>【病理学各論5.「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」】 各種ウイルス性肝炎、アルコール性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪肝炎、肝硬変、肝細胞癌などの肝臓の疾患、胆石症と慢性胆嚢炎、胆道癌などの胆嚢・胆道の疾患、急性膵炎と慢性膵炎、膵癌などの膵臓の疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>【病理学各論6.「泌尿器系、男性生殖器系、女性生殖器系と乳腺、内分泌系の疾患」】 糸球体疾患、腎細胞癌などの泌尿器系の疾患、精巣腫瘍や前立腺過形成、前立腺癌などの男性生殖器系の疾患、子宮頸癌、子宮体癌、乳癌などの女性生殖器系と乳腺の疾患、下垂体腺腫、甲状腺癌など内分泌系の疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>【病理学各論7.「筋・骨格系、皮膚、脳・神経系、眼と耳、全身性疾患」】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、骨肉腫などの筋・骨格系の疾患、炎症性皮膚疾患や皮膚の腫瘍、脳血管疾患、頭蓋内感染症、脱髄疾患、主な神経系腫瘍、膠原病やアミロイドーシスなどの全身性疾患について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト(100%)など。
その他	0	特記事項なし。
教科書		
教科書は特に指定しない。		
参考文献		

標準病理学 第7版／北川正伸ほか編集／医学書院

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		病態生理学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
<p>病態生理学特論で学んだ知識に基づいて、全身諸臓器の病理組織像(プレパラート、バーチャルスライド、アトラス等)を観察し、基本的な病理形態学を学ぶための科目である。ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。」に関連する。「生命科学特論」や「病態生理学特論」、「神経生理学特論」、「運動器障害学特論」に関連し、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>病態生理学特論で得た全身諸臓器の主要な疾患の病態生理学的知識に加え、それぞれの疾患の形態学的所見についての理解を深める。</p>							
到達目標							

1. 全身諸臓器の病態生理学に関する知識を深め、説明できる。
2. 全身諸臓器の基本的な病理形態学的所見を理解し、説明できる。
3. これらの知識をリハビリテーションの実践・研究に応用できる。

授業の方法

オンライン授業を実施する。
 必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。
 Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>【病理形態学各論1.「心臓」「血管」】 心筋炎、弁膜疾患、特発性心筋症、アミロイドーシス等二次性心筋症、動脈硬化性疾患、心外膜疾患、心臓腫瘍、心奇形、動脈瘤、解離性大動脈瘤、嚢胞性中膜壊死、血管炎等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>【病理形態学各論2.「頭頸部・鼻腔・咽頭・喉頭・耳」「肺・縦隔」】 鼻咽頭の腫瘍、鼻茸や内反性乳頭腫等の鼻腔・副鼻腔の腫瘍と炎症性疾患、中・下咽頭の腫瘍性疾患、喉頭結節、細菌性肺炎、肺結核症、びまん性肺疾患、肺循環障害、肺腫瘍、胸膜の疾患等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>【病理形態学各論3.「口腔」「唾液腺」】 エナメル上皮腫や角化嚢胞性歯原性腫瘍等の歯原性腫瘍、扁平上皮癌等の悪性腫瘍、歯根嚢胞や含歯性嚢胞等の嚢胞性病変、セメント質骨性異形成症や骨形成性線維腫、シェーグレン症候群、IgG4関連唾液腺炎、多形腺腫等の唾液腺腫瘍の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>【病理形態学各論4.「食道・胃」「腸管」】 逆流性食道炎、バレット食道と腺癌、食道扁平上皮癌、慢性胃炎と胃潰瘍、胃癌の組織分類、虚血性腸炎、腸結核、大腸アメーバ症、腸管スピロヘータ症、炎症性腸疾患、大腸腺腫、大腸癌等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>【病理形態学各論5.「肝臓」「胆道・胆嚢」「膵臓」】 急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、代謝機能障害関連脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、肝細胞癌、胆道癌、膵管内腫瘍、浸潤性膵管癌等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>【病理形態学各論6.「腎臓1(糸球体疾患など)」「腎臓2(腫瘍性疾患など)」 微小変化糸球体病変、巣状分節性糸球体硬化症、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、IgA腎症、ループス腎炎、血栓性微小血管症、糖尿病性腎症、腎細胞癌等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>【病理形態学各論7.「尿路」「男性生殖器」】 マラコプラキア、増殖性膀胱炎、間質性膀胱炎、乳頭腫、尿路上皮癌、精巣上体精巣炎、セミノーマ、胎児性癌、悪性リンパ腫、前立腺結節性過形成、前立腺癌、尖圭コンジローマ等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>【病理形態学各論8.「卵巣・卵管」「子宮・外陰」】 漿液性、粘液性の各種卵巣腫瘍、奇形腫、子宮内膜症性嚢胞、頸管ポリープ、ナボット嚢胞、子宮頸部扁平上皮癌、子宮頸部腺癌、子宮内膜増殖症、子宮内膜異型増殖症、子宮体癌の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>【病理形態学各論9.「乳腺」「NET, 副腎」「甲状腺・副甲状腺」】 乳腺症、線維腺腫、葉状腫瘍、乳管内乳頭腫、非浸潤性・浸潤性乳管癌、小葉癌、アポクリン癌、パジェット病、副腎皮質腺腫、副腎皮質癌、褐色細胞腫、甲状腺乳頭癌、髄様癌、濾胞癌、未分化癌等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>【病理形態学各論10.「皮膚」「骨・関節】 皮膚の各種炎症性疾患、脂漏性角化症、基底細胞癌、ケラトアカントーマ、ボーエン病、日光角化症、扁平上皮癌、悪性黒色腫等の皮膚腫瘍、非腫瘍性骨関節疾患、骨肉腫等の骨腫瘍の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>【病理形態学各論11.「軟部組織」「脳・脊髄】 脂肪腫、脂肪肉腫、デスモイド型線維腫症、炎症性筋線維芽細胞腫、線維肉腫、平滑筋肉腫、横紋筋肉腫、滑膜肉腫等の軟部組織の腫瘍、各種神経変性疾患、頭蓋内感染症の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>【病理形態学各論12.「脳腫瘍・下垂体」「末梢神経・筋」「眼】 膠芽腫、乏突起膠腫、上衣腫、髄膜腫、髄芽腫、血管芽腫等各種脳腫瘍、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、筋ジストロフィー、多発筋炎、皮膚筋炎、網膜芽細胞腫、眼窩のMALTリンパ腫、IgG4関連疾患等の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>【病理形態学各論13.「造血器」「リンパ節・リンパ組織・脾臓」】 巨赤芽球性貧血、自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病、各種白血病、伝染性単核球症、菊池病、猫ひっかき病、各種悪性リンパ腫の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>【病理形態学各論14.「小児・周産期病理, 胎盤」】 髄芽腫、網膜芽腫、肝芽腫、神経芽腫、腎芽腫等小児悪性腫瘍、胎便吸引症候群、新生児壊死性腸炎、ヒルシュスブルング病等の非腫瘍性疾患、妊娠高血圧症候群や絨毛膜羊膜炎等の胎盤の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>【病理形態学各論15.「代謝性疾患・全身性疾患」「膠原病・IgG4関連疾患」「感染症」】 糖尿病、アミロイドーシス、痛風、石灰化異常、敗血症、SLE、関節リウマチ、全身性硬化症、IgG4関連疾患、各種細菌、真菌、ウイルス、原虫、寄生虫感染の病理形態学的所見について学ぶ。</p>	<p>今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)</p>	<p>参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況(100%)等。
その他	0	特記事項なし。
教科書		
教科書は特に指定しない。		
参考文献		

組織病理アトラス 第6版／小田義直ほか(編集)／文光堂

履修条件・留意事項等

病態生理学特論を修得していることが望ましい。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		神経・細胞生理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、柴田 恵理子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことも関係する。「リハビリテーション科学特論」「神経・発達障害リハビリテーション科学特論」と関連し、「神経・細胞生理学特論演習」の基礎となる。

授業の概要

遺伝子や細胞を基盤とする様々な生命現象を理解し、疾患、障害やリハビリテーションの背景となる人体の仕組みを分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで学修する。また、脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機構について、分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで理解し、リハビリテーションによる神経機能回復について神経科学的観点から学修する。

到達目標

細胞の構造、細胞を構成する物質とその役割について理解し、説明できる。
 細胞が行う代謝、遺伝子発現、シグナル伝達や増殖・発生について理解し、説明できる。
 中枢神経系の構造と機能を理解し、生体機能を担う神経情報伝達の仕組みを説明できる。
 運動制御の背景となる神経生理の基礎及びその神経系の統合作用について理解する。
 中枢神経系疾患の病態生理を理解し、説明できる。

授業の方法

オンラインまたは対面で行う。
 パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、教科書の輪読とゼミ形式での文献紹介を行う。

ICT活用

授業パワーポイント資料や文献・参考資料などをGoogle Classroomにアップし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

木村は該当なし。柴田は理学療法士として勤務した経験を活かして、神経系による運動制御とその障害について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表に対してディスカッションを行いながら知識の確認を行う。
 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>生命科学の基本概念—生命を構成する物質、細胞、恒常性について理解する。</p>	<p>教科書1第1～3章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第2回</p>	<p>生命現象の仕組み1—タンパク質、核酸、遺伝子発現、生体膜、代謝、バイオテクノロジーについて理解する。</p>	<p>教科書1第4～6、8～10章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第3回</p>	<p>生命現象の仕組み2—細胞内輸送、細胞骨格、細胞のシグナル伝達、細胞周期、動物の発生、遺伝子発現の制御について理解する。</p>	<p>教科書1第12～18,20章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第4回</p>	<p>神経細胞による情報伝達機構を理解する。 中枢神経組織の構造と機能を理解する。</p>	<p>教科書2第1～13,15章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第5回</p>	<p>神経発生と神経回路形成のメカニズムについて理解する。 感覚受容機構と脳における情報処理:視覚・聴覚・平衡覚・体性感覚・嗅覚・味覚について理解する。</p>	<p>教科書2第16～32,52～56章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第6回</p>	<p>中枢神経系による運動制御の概略について理解する。</p>	<p>教科書2第33～44章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第7回</p>	<p>脳の可塑的变化やシナプス可塑性と学習・記憶のメカニズムを理解する。</p>	<p>教科書2第57, 65～67章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第8回</p>	<p>自律神経系と内分泌、脳の高次機能 について理解する</p>	<p>教科書2第45～49,60,61章を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第9回</p>	<p>電気生理学的検査法1:表面筋電図について理解する。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			

<p>第10回</p>	<p>電気生理学的検査法2:経頭蓋磁気刺激について理解する。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第11回</p>	<p>神経生理学の知見に基づくリハビリテーション1:非侵襲的脳刺激を用いたリハビリテーションについて理解する。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第12回</p>	<p>神経生理学の知見に基づくリハビリテーション2:認知刺激を用いたリハビリテーションについて理解する。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			

<p>第13回</p>	<p>神経生理学の知見に基づくリハビリテーション3:認知刺激を用いた運動学習に基づくリハビリテーションについて理解する。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第14回</p>	<p>文献レビュー1:ニューロリハビリテーションに関する理解を深める。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第15回</p>	<p>文献レビュー2:ニューロリハビリテーションに関する理解を深める。</p>	<p>事前に指定する関連論文等を予習しておくこと。(90分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の討論への積極的な参加度(50%) レポート(50%)
その他	0	
教科書		
1.理系総合のための生命科学第5版、東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社 2.カンデル神経科学第2版、カンデル他編、メディカルサイエンスインターナショナル		
参考文献		

適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		神経・細胞生理学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 一志、柴田 恵理子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことも関係する。「神経・細胞生理学特論」と関連し、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。

授業の概要

神経細胞をはじめとする細胞による情報伝達・情報処理機構と脳をはじめとする中枢神経系の生理機能を解明する研究手法について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く学習し、その実験技術を修得する。

到達目標

神経細胞・組織の分子生物学的・細胞生物学的解析方法について理解する。
 神経生理学的解析方法について理解する。
 生体機能を担う神経情報伝達の仕組みや中枢神経系疾患の病態生理を解明する研究を立案し、遂行できる。

授業の方法

配布印刷物を用いて方法を説明したのち、実験あるいは実験のデモンストレーションを行う。
 実験終了後に実験目的、内容、実験結果、結果の解析、結果の考察をまとめたレポートを作成する。
 基本的に対面で行うが、内容によってはオンラインで行う。

ICT活用

オンラインデータベースなどを利用して、研究計画や実験計画の立案に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

木村は該当なし。柴田は理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電計や脳波計などを用いた演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実験結果が得られるごとに討論を行いながら考察を行う。
 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>遺伝子の研究法1: PCR法により遺伝子多型や発現量を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第2回</p>	<p>遺伝子の研究法2: リアルタイムPCR法による遺伝子多型と発現解析を行う。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第3回</p>	<p>神経細胞の研究法: 顕微鏡を用いて培養した神経細胞の形態学的解析、色素染色や免疫染色を行う。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第4回</p>	<p>個体レベルの研究法1:心電図計測による自律神経活動の測定を行う。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第5回</p>	<p>神経組織と臓器レベルの研究法:顕微鏡を用いて神経組織の色素染色や免疫染色による形態学的解析を行う。脳スライス画像を用いて神経解剖学的解析を行う。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第6回</p>	<p>個体レベルの研究法2:ストレスの測定 1-唾液アミラーゼ計測によるストレスの変動を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第7回</p>	<p>個体レベルの研究法3:ストレス測定 2-唾液中に含まれるストレスホルモンの計測を行い、その変動を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第8回</p>	<p>個体レベル研究法4:超音波画像診断装置を用いて、筋の働きを調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(45分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第9回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験1:経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位の計測方法について理解する。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			

<p>第10回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験2:経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位の計測を実践し、理解を深める。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第11回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験3:経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位の解析方法について理解する。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第12回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験4:経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位のデータの解釈について理解する。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			

<p>第13回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験5:運動イメージ想起に伴う皮質レベルの興奮性変化を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第14回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験6:視覚刺激を用いた運動錯覚に伴う皮質レベルの興奮性変化を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>第15回</p>	<p>ヒトを対象とした電気生理実験7:体性感覚刺激を用いた運動錯覚に伴う皮質レベルの興奮性変化を調べる。</p>	<p>演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)</p>	<p>レポートを作成すること(120分)</p>
<p>担当教員 柴田 恵理子</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、 演習への積極的参加度(20%)、 実験データ解析における討論への積極的参加度(20%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

演習項目ごとに関連する文献を紹介する

履修条件・留意事項等

神経・細胞生理学特論を履修していることが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		身体機能解析学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

本授業は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「リハビリテーションおよび地域の健康支援領域における知識と技術の進歩に対応できる能力(知識・技能)」の育成に対応する科目である。
 リハビリテーション分野に関する各専門領域の知識と技術を修得し、それらを基盤として職場や地域社会に貢献するための基礎的能力を養うことを目的とする。

授業の概要

ヒトの運動および身体機能の解析について、運動学的手法ならびに基礎医学的手法を学び、それぞれの特性を理解する。さらに、これらの手法によって得られた結果を基に身体機能への理解を深め、正常と異常の差異を明らかにする。加えて、得られた知見を踏まえ、リハビリテーション領域における臨床応用の基礎を構築する。

到達目標

- ・運動および身体機能の計測ならびに解析を適切に実施できる。
- ・四肢および体幹の運動や身体機能について、正常動作と障害動作の差異を説明できる。
- ・計測および解析から得られた知見を基に、リハビリテーション領域における臨床応用について論理的に説明できる。

授業の方法

本授業では、講義(座学)、グループ討議、課題に対する検討会等を通して、臨床研究に即した実践的な知識および技能の深化を図る。必要に応じてインターネットを活用した調査および自己学習も実施する。

ICT活用

Google Meetを用いた双方向型授業を中心に実施し、状況に応じて対面授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、大森、橋田、池野、南部は、理学療法士として医療機関における臨床業務および臨床研究に継続して従事してきた経験を有しており、その実務経験を活かして本講義を担当する。
本講義では、さまざまな身体機能について検査機器を用いた解析を行い、その結果を基に学生と討議し、臨床的視点からの理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

演習課題については、院生の主体的な取り組みを踏まえ、授業内において適宜口頭でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 前期科目の身体機能解析学特論で行った内容を踏まえて、各自で演習テーマを決める。</p>	<p>身体機能解析に用いられるさまざまな機器やデータ処理の手法について予習すること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第2回</p>	<p>前回授業で決めた演習テーマに沿って、解析方法を文献等を調べながら決定する。</p>	<p>基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第3回</p>	<p>前回授業で決めた解析方法が有効であるか否かについて文献等を調べながらさらに考察する。</p>	<p>基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)各自が使用する身体機能解析に用いられるさまざまな機器について予習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			

<p>第4回</p>	<p>各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。</p>	<p>各自が使用する身体機能解析に用いられるさまざまな機器について予習すること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			
<p>第5回</p>	<p>各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。また、得られたデータについて先行研究などを参照しながら学生同士で討論し、演習テーマを決定する。</p>	<p>収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			
<p>第6回</p>	<p>各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行う。</p>	<p>収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			

<p>第7回</p>	<p>前回からの継続として、各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行い、データをまとめる。</p>	<p>収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>橋田 浩</p>		
<p>第8回</p>	<p>中間発表を行い、学生同士で討論する。</p>	<p>中間発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)</p>	<p>中間発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>橋田 浩</p>		
<p>第9回</p>	<p>中間発表および討論を元に、解析方法等についての修正を行う</p>	<p>中間発表・討論の結果を受けてテーマの修正が必要か否かについて内容を整理しておくこと。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>橋田 浩</p>		

<p>第10回</p>	<p>前回の修正を基に演習テーマについてのデータ収集を行う。</p>	<p>収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			
<p>第11回</p>	<p>前回の継続として演習テーマについてのデータ収集を行う。</p>	<p>収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			
<p>第12回</p>	<p>演習テーマのデータ解析に必要な統計について学び準備を行う。</p>	<p>データ解析で用いる統計について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			

第13回	演習テーマの発表および討論に向けて、データの確認や統計学的解析を行う。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第14回	演習テーマの発表および討論の準備を行う。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	各自の演習テーマについての発表および討論。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	本授業は定期試験を行わず、授業内課題、発表内容、ディスカッションにおける主体的参加および発言の質等を総合的に評価する。 ・授業内課題(レポート・ワークシート等) 60% ・発表および討議への貢献度(発言の内容・専門的視点・批判的検討を含む) 25% ・出席状況および受講態度 15%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
レポート課題等作成のためPCおよびインターネット環境を整えておくこと。
備考欄
なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		身体機能解析学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

本授業は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」に対応する科目である。
 リハビリテーション関連領域において中核的・指導的役割を担う高度専門職業人の養成を目的とし、高度な臨床研究能力の涵養を図る。
 なお、本授業は「身体機能解析学特論」で修得した知識を基盤として展開する。

授業の概要

身体機能解析学特論で修得した知識を基に、生理学的、工学的および運動学的解析手法を実践的に用い、それぞれの特性を理解する。さらに、任意の課題動作について健常者を対象とした解析および文献的考察を行い、正常動作と障害動作の差異について検討する。

到達目標

- 運動及び身体機能の計測と解析を実行できる。
- 四肢及び体幹の運動や身体機能について正常な動作と障害された動作の違いを説明できる。

授業の方法

本演習では、講義(座学)、グループ討議、課題に対する検討会等を通して、臨床研究に即した実践的な知識および技能の深化を図る。必要に応じて、インターネットを活用した調査および自己学習も実施する。

ICT活用

Google Meetを用いた双方向型授業を中心に実施し、状況に応じて対面授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、大森、橋田、池野、南部は、理学療法士として医療機関における臨床業務および臨床研究に継続して従事してきた経験を有しており、その実務経験を活かして本演習を担当する。
本演習では、さまざまな身体機能について検査機器を用いた解析を行い、その結果を基に学生と討議し、臨床的視点からの理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

演習課題については、院生の主体的な取り組み内容を基に、講義内で講評および助言を行い、研究的視点から理解の深化を図る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 前期科目の身体機能解析学特論で行った内容を踏まえて、各自で演習テーマを決める。</p>	<p>身体機能解析に用いられるさまざまな機器やデータ処理の手法について予習すること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第2回</p>	<p>前回授業で決めた演習テーマに沿って、解析方法を文献等を調べながら決定する。</p>	<p>基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			
<p>第3回</p>	<p>前回授業で決めた解析方法が有効であるか否かについて文献等を調べながらさらに考察する。</p>	<p>基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)各自が使用する身体機能解析に用いられるさまざまな機器について予習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐藤 明紀</p>			

<p>第4回</p>	<p>各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。</p>	<p>各自が使用する身体機能解析に用いられるさまざまな機器について予習すること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			
<p>第5回</p>	<p>各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。また、得られたデータについて先行研究などを参照しながら学生同士で討論し、演習テーマを決定する。</p>	<p>収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			
<p>第6回</p>	<p>各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行う。</p>	<p>収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 大森 圭</p>			

第7回	前回からの継続として、各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行い、データをまとめる。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	中間発表を行い、学生同士で討論する。	中間発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	中間発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	中間発表および討論を元に、解析方法等についての修正を行う	中間発表・討論の結果を受けてテーマの修正が必要か否かについて内容を整理しておくこと。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

<p>第10回</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			
<p>第11回</p>	<p>前回の継続として演習テーマについてのデータ収集を行う。</p>	<p>収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			
<p>第12回</p>	<p>演習テーマのデータ解析に必要な統計について学び準備を行う。</p>	<p>データ解析で用いる統計について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>	<p>演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)</p>
<p>担当教員 池野 秀則</p>			

第13回	演習テーマの発表および討論に向けて、データの確認や統計学的解析を行う。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第14回	演習テーマの発表および討論の準備を行う。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	各自の演習テーマについての発表および討論。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	本授業は定期試験を行わず、授業内課題、発表内容ディスカッションにおける主体的参加および発言の質等を総合的に評価する。 ・授業内課題(レポート・ワークシート等) 60% ・発表および討議への貢献度(発言の内容・専門的視点・批判的検討を含む) 25% ・出席状況および受講態度 15%
その他	0	なし
教科書		
特になし		
参考文献		

特になし

履修条件・留意事項等

レポート課題作成のためPCおよびインターネット環境を整えておくこと。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		運動器障害学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、高田 雄一、金子 翔拓						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」や「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる(思考・意欲・態度)」と関係している。また、運動器障害学特論演習の基礎となる科目である。

授業の概要

上肢、下肢、脊柱の機能障害に対するリハビリテーション治療の臨床・研究の現状を理解し、今後の課題について学修する。

到達目標

1. 上肢、下肢、脊柱の機能障害に関する最新の文献に触れ、研究動向を理解できる。
2. 上肢、下肢、脊柱の機能障害に対する徒手療法、運動療法について理解できる。
3. 足部の機能障害、身体運動のパフォーマンス向上を目的としたインソール療法について理解できる。

授業の方法

オンライン授業を中心に実施する。パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、ディスカッション方式で授業を行う。またゼミ形式で各自の研究テーマに応じた英文抄読を行い理解を深める。

ICT活用

Google Meetを用いた、遠隔授業を実施する

実務経験のある教員の教育内容

担当教員の白戸は、運動器障害領域に対する作業療法士の勤務経験があり、術後作業療法に関する幅広い知識を有している。また金子は、運動器障害領域に対する作業療法士の勤務経験があり、保存療法に関する幅広い知識を有している。さらに、高田は運動器障害領域に対する理学療法士の勤務経験があり、この領域全般の幅広い知識を有している。これらの経験を活かしてこの科目の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の終わりにディスカッションを行い、内容の理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション コースガイドについての説明	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	肩関節の運動と頸椎分節運動の関係について	テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	肩関節肢位と手関節伸筋群の筋活動の関係について	テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)
担当教員	金子 翔拓		

<p>第4回</p>	<p>母指と小指の自動外転時の手関節周囲筋の筋活動について</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			
<p>第5回</p>	<p>屈筋腱狭窄性腱鞘炎のスプリント療法の治療メカニズムについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			
<p>第6回</p>	<p>手根管形態変化のメカニズムについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			

<p>第7回</p>	<p>歩行・動作に関連する評価と治療アプローチについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第8回</p>	<p>足関節の評価と治療アプローチについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第9回</p>	<p>足部の評価と治療アプローチについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			

<p>第10回</p>	<p>腰部機能障害の評価と治療アプローチについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第11回</p>	<p>インソールによる治療アプローチについて</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第12回</p>	<p>肘関節機能とバイオメカニクス</p>	<p>テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)</p>	<p>授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			

第13回	手関節機能とバイオメカニクス	テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)
担当教員 白戸 力弥			
第14回	手指機能とバイオメカニクス	テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)
担当教員 白戸 力弥			
第15回	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会	テーマに関する内容を予習しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(15分)
担当教員 白戸 力弥			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度積極性(20%)、課題(50%)、発表内容(30%)
その他	0	なし
教科書		
指定しない。適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。		
参考文献		

適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。

履修条件・留意事項等

臨床において上肢、下肢、脊柱の運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。複数人の履修が望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		運動器障害学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	白戸 力弥、高田 雄一、金子 翔拓						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に係わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応できることができる(思考・判断・表現)」と「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」に関連する。また運動器障害特論のまとめの授業である。

授業の概要

運動器障害治療の基礎科学、評価・治療の基本概念と、それを実践するための治療技術を修得する。
 ・運動器疾患に対する基本的な臨床推論と、臨床判断の理論的背景を学修する。
 ・運動器疾患に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について学修する。

到達目標

1. 運動器障害の治療に関する研究論文を系統的に分析、理解し、批判できる。
2. 運動器障害に対する治療効果を科学的に検証し、研究を計画し、実施できる。
3. 運動器障害に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について説明できる。

授業の方法

配布資料による説明をした後、実技を行うことで、運動器障害に対する適切な治療アプローチを習得する。また、ゼミ形式で症例検討や英文抄読を行い、最新の知見や研究動向を理解するとともにプレゼンテーション能力、研究能力、論文作成能力を培う。

ICT活用

オンライン中心に授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員の白戸は、運動器障害領域に対する作業療法士の勤務経験があり、術後作業療法に関する幅広い知識を有している。また金子は、運動器障害領域に対する作業療法士の勤務経験があり、保存療法に関する幅広い知識を有している。さらに、高田は運動器障害領域に対する理学療法士の勤務経験があり、この領域全般の幅広い知識を有している。これらの経験を活かしてこの科目の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の終わりにディスカッションを行い、理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション コースガイドについての説明</p>	<p>なし</p>	<p>質疑応答により内容を深く理解すること。(90分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			
<p>第2回</p>	<p>上肢絞扼神経障害に対するリハビリテーションの最新</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			
<p>第3回</p>	<p>上肢変性疾患に対するリハビリテーションの最新</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			

<p>第4回</p>	<p>肩関節機能障害とADLの関連について</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			
<p>第5回</p>	<p>頸椎疾患のリハビリテーションについて</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			
<p>第6回</p>	<p>姿勢と情報機器作業(VDT作業)による機能障害発生の関係性</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 金子 翔拓</p>			

<p>第7回</p>	<p>股関節のマニュアルセラピーの実技演習</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第8回</p>	<p>膝関節、足関節のマニュアルセラピーの実技演習</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第9回</p>	<p>歩行・動作に関連する足部・足関節の評価と実技演習</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			

<p>第10回</p>	<p>歩行・動作に基づくインソール作成①</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第11回</p>	<p>歩行・動作に基づくインソール作成②</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第12回</p>	<p>表面筋電図を用いた運動の解析法について</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			

<p>第13回</p>	<p>ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習1</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			
<p>第14回</p>	<p>ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習2</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			
<p>第15回</p>	<p>症例検討 後方視的に文献を含めた臨床推論を行い、アプローチの科学性を討議する</p>	<p>演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(30分)</p>	<p>演習内容を実践できるよう理解を深めること。(15分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度積極性(20%)、課題(50%)、発表内容(30%)
その他	0	
教科書		
指定しない。適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。		
参考文献		

適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。

履修条件・留意事項等

臨床において運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。同特論を履修していることが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		神経・発達障害リハビリテーション科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、牧野 均、金谷 匡紘、松田 直樹						
授業の位置づけ							
<p>神経障害、発達障害全般のリハビリテーションに関する専門的知識を獲得するための科目である。この科目を学習することで広く障害を捉えることが可能となり、さらには神経・発達障害を研究的視点で捉えることが可能である。学部で学習した神経・発達障害関連の知識を、研究・臨床実践的にさらに応用できるようになる。本科目はディプロマポリシーのリハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)と強く関連しており、またリハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)と関連している。</p>							
授業の概要							
<p>神経障害は身体構造、心身機能、活動レベル、さらに社会参加など、Quality of life (QOL, 生活の質)に大きく影響するものである。本科目では、神経障害の様々な臨床像を学習し、評価、治療に関する知識を深める。また子どもから大人までの神経障害を学習し、研究を立案する際に、現在理解されている障害についてより知識を深める。対象者に貢献できるリハビリテーションの具体的な内容を提案するための、基礎知識から評価や治療に関する最新の知見、さらには研究的視点を学習する。</p>							
到達目標							

1. 神経障害学、発達障害学全般について基本的知識を習得する
2. 多様な神経障害のうち特に、基底核・小脳障害、運動ニューロン障害、脊髄障害、高次脳機能障害などを含む疾患について、症候学から評価法に至る過程を習得する
3. おもな神経疾患、発達関連障害について、根拠を示しながらより効果的なリハビリテーション治療学を学習する
4. 近年、注目されているリハビリテーション治療方法を学習する

授業の方法

パワーポイントや配布印刷物を活用しながら講義形式、または受講生が事前学習したものについて、教員と意見を交わしながらのゼミ形式で進める。

ICT活用

google meetを使用した遠隔授業、課題フィードバックの実施、google classroomを使用した論文・動画資料を共有して学習動機を促す

実務経験のある教員の教育内容

本科目を担当する4名の教員のうち、横井は小児医療施設、金谷は脳血管病院、松田は脳血管病院、牧野は脊髄疾患の専門病院での実務経験を有しており、リハビリテーションの実践と研究の両面から教えることが可能である

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。提出されたレポートに対して、不足があれば補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション,神経・発達障害リハビリテーションの歴史 (横井裕一郎)</p>	<p>事前に配布資料をまとめて、プレゼンする準備をする(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 横井 裕一郎</p>			
<p>第2回</p>	<p>神経障害の陽性徴候①・痙縮と評価</p>	<p>当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 横井 裕一郎</p>			
<p>第3回</p>	<p>神経障害の陽性徴候②・不随意運動・運動失調と評価</p>	<p>当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 横井 裕一郎</p>			

<p>第4回</p>	<p>脳血管障害の病態像とリハビリテーション①</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 牧野 均</p>			
<p>第5回</p>	<p>脳血管障害の病態像とリハビリテーション②</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 松田 直樹</p>			
<p>第6回</p>	<p>脳血管障害の病態像とリハビリテーション③</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 金谷 匡紘</p>			

第7回	脳血管障害の病態像とリハビリテーション④	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			
第8回	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション①	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			
第9回	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			

<p>第10回</p>	<p>高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション③</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 金谷 匡紘</p>			
<p>第11回</p>	<p>脊髄損傷の病態像とリハビリテーション</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 牧野 均</p>			
<p>第12回</p>	<p>神経難病の病態像とリハビリテーション</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 松田 直樹</p>			

第13回	神経障害への新しいリハビリテーション①ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第14回	神経障害への新しいリハビリテーション②ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	神経障害への新しいリハビリテーション③	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、プレゼン課題80%， 授業への参加態度20%で総合的に評価します
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業前、授業中に提示

履修条件・留意事項等

担当教員と日時調整しながら行う

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		神経・発達障害リハビリテーション科学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、牧野 均、金谷 匡紘、松田 直樹						

授業の位置づけ

神経障害、発達障害全般のリハビリテーションに関する専門的知識を獲得するための科目である。この科目を学習することで広く障害を捉えることが可能となり、さらには神経・発達障害を研究的視点で捉えることが可能である。学部で学習した神経・発達障害関連の知識を、研究・臨床実践的にさらに応用できるようになる。本科目はディプロマポリシーのリハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)と強く関連しており、またリハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)と関連している。

授業の概要

神経障害分野のリハビリテーションの対象である脳血管障害および神経難病、脳性まひなどに関する病態生理、障害の評価と運動解析、さらに機能回復に関連するメカニズムについて学ぶ。また対象者に貢献できるリハビリテーションの具体的な内容を提案するための、基礎知識から評価や治療に関する最新の知見、さらには研究的視点を学習する。

到達目標

1. 脳血管障害の病態について、リハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。
2. 神経障害分野のリハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。
3. 症例ごとに異なる病態・障害に着目して、最も適したリハビリテーション治療を提案することができる。
4. 最新のニューロリハビリテーションを研究成果から学習し、各自の専門分野への応用を考察できる

授業の方法

受講生が事前学習したものについて、教員と意見を交わしながらのゼミ形式で行う。臨床的・実践的な技能を深めるためにディスカッションを多く取り入れ、パワーポイントや動画などを活用する。治療実践が必要な場合は、リハ現場で行う。

ICT活用

google meetを使用した遠隔授業、課題フィードバックの実施、google classroomを使用した論文・動画資料を共有して、双方向性の演習を行う

実務経験のある教員の教育内容

本科目を担当する4名の教員のうち、横井は小児医療施設、金谷は脳血管病院、松田は脳血管病院、牧野は脊髄疾患の専門病院での実務経験を有しており、リハビリテーションの実践と研究の両面から教えることが可能である

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。不足があれば補足ディスカッションを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション,神経障害リハビリテーションの歴史 (横井裕一郎)	事前に配布資料をまとめて、プレゼン準備をする(180分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	神経障害の陽性徴候①・痙縮と評価、バランス機能	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備、または英文抄読を行う(180分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		
第3回	神経障害の陽性徴候②・不随意運動・運動失調と評価、バランス機能	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備、または英文抄読を行う(180分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		

第4回	脳血管障害のリハビリテーション①	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	牧野 均		
第5回	脳血管障害のリハビリテーション②	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	脳血管障害のリハビリテーション③	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	金谷 匡紘		

第7回	脳血管障害のリハビリテーション④	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			
第8回	高次脳機能障害のリハビリテーション①	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめてくること。(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			
第9回	高次脳機能障害のリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめてくること。(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 金谷 匡紘			

<p>第10回</p>	<p>高次脳機能障害のリハビリテーション③</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 金谷 匡紘</p>			
<p>第11回</p>	<p>脊髄損傷のリハビリテーション</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 牧野 均</p>			
<p>第12回</p>	<p>神経難病のリハビリテーション</p>	<p>事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)</p>	<p>授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)</p>
<p>担当教員 松田 直樹</p>			

第13回	神経障害への新しいリハビリテーション①ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 松田 直樹			
第14回	神経障害への新しいリハビリテーション②ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 松田 直樹			
第15回	神経障害への新しいリハビリテーション③	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員 横井 裕一郎			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、プレゼン課題80% , 授業への参加態度20%で総合的に評価します、
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業前、授業中に提示する

履修条件・留意事項等

担当教員と日時調整しながら行う

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		高齢者リハビリテーション学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 幸子、玉 珍、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」と特に関連する科目である。「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」、「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる(知識・技能)」とも関連する。高齢者リハビリテーション学特論演習の基礎となる。

授業の概要

本講義では高齢者の諸問題を包括的な視点で捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを展開するために必要な基本的知識、方法論について概説する。介護予防及び高齢者を対象としたリハビリテーションについて、その理論的背景、評価・実践技法、効果判定方法などを考究することを目的とする。

到達目標

- ・心身機能、社会的機能を含めた包括的な高齢者の特徴について説明できる。
- ・介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの評価・分析方法について、具体的手法とその理論的背景を説明できる。
- ・介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの実践指導法について、その理論的背景、効果判定、効果機序を説明できる。

授業の方法

配布資料を活用しながら、講義形式とゼミ形式を併用して進める。
 講義中に提示した課題について、学生がプレゼンテーションを行う。
 論文抄読の回では事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は老年期障害に対する理学療法、作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義テーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。
 レポートにコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	加齢に伴う身体、精神・心理、社会的機能	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	フレイル、サルコペニアの評価、治療、予防介入に関する最新の知見	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	フレイル、サルコペニアに関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第4回	高齢者の身体活動に関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第5回	高齢者の社会活動に関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第6回	COVID-19パンデミックによる高齢者への影響	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			

第7回	認知症高齢者の増加に対する国内外の対策と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第8回	高齢者の機能評価①	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第9回	高齢者の機能評価②	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			

第10回	地域在住高齢者を対象とした研究手法①	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第11回	地域在住高齢者を対象とした研究手法②	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第12回	地域リハビリテーション	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 水本 淳			

第13回	高齢者のリハビリテーション評価・分析	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
第14回	高齢者の日常生活介入・環境調整	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	高齢者リハビリテーションの現状と課題	連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、授業内で提示する課題(100%)
その他	0	なし
教科書		
なし。必要に応じて参考書籍、文献を紹介する。		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
なし
備考欄
なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		高齢者リハビリテーション学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	佐々木 幸子、玉 珍、水本 淳						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」と特に関連する科目である。「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」、「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる(知識・技能)」とも関連する。</p>							
授業の概要							
<p>近年、医療・保健福祉の分野においては高齢者の諸問題を包括的に捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを実践することが求められている。本演習では多様な問題を抱える高齢者に対するリハビリテーション及び介護予防の効果的な実践方法について考究することを目的とする。文献抄読などを通して、先行研究の問題点と課題を考察・討論し、具体的な実践や研究に利用できる基礎能力を養成する。</p>							
到達目標							

・高齢者のリハビリテーション・及び介護予防に関する先行研究に基づき、実践や研究の現状、問題点と課題を述べることができる。
 ・学習した知識に基づいて、高齢者のリハビリテーション及び介護予防に関する研究目的、対象、手法を具体的に想定した研究実施計画書を作成することができる。

授業の方法

・高齢者のリハビリテーション・及び介護予防に関する先行研究に基づき、実践や研究の現状、問題点と課題を述べることができる。
 ・学習した知識に基づいて、高齢者のリハビリテーション及び介護予防に関する研究目的、対象、手法を具体的に想定した研究実施計画書を作成することができる。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は老年期障害に対する理学療法・作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題に対して発表や討論を行い、得られた知識の確認を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	国内外の高齢者を対象とした疫学研究の紹介と論文の批判的吟味	なし	授業で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員 佐々木 幸子			
第2回	フレイル 評価法の実際と研究への応用	授業で紹介した文献と配布した資料を予習すること。(180分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第3回	文献抄読 フレイルをテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身研究への応用について討議する。	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			

<p>第4回</p>	<p>サルコペニア 評価法の実際と研究への応用</p>	<p>紹介された文献を予習すること. (90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること. (90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			
<p>第5回</p>	<p>文献抄読 国内外のサルコペニアをテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身の研究への応用について検討する。</p>	<p>課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること. (90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること. (90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			
<p>第6回</p>	<p>高齢者の身体活動 評価法の実際と研究への応用</p>	<p>紹介された文献を予習すること. (90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること. (90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			

<p>第7回</p>	<p>文献抄読 国内外の身体活動をテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身の研究への応用について検討する。</p>	<p>課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			
<p>第8回</p>	<p>COVID-19の高齢者への影響</p>	<p>紹介された文献を予習すること。(90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			
<p>第9回</p>	<p>文献抄読 国内外のCOVID19をテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身の研究への応用について検討する。</p>	<p>課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)</p>	<p>資料の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 幸子</p>			

第10回	課題説明、課題作成	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第11回	課題発表 介護予防をテーマとした研究計画を立案し発表、討議する	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員 佐々木 幸子			
第12回	地域リハビリテーション	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員 水本 淳			

第13回	高齢者のリハビリテーション評価・分析	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
第14回	高齢者の日常生活介入・環境調整	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	高齢者リハビリテーションの現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内で提示する課題(100%)
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
高齢者リハビリテーション学特論を基礎とする科目だが, 本科目だけの履修も可能
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		職業リハビリテーション学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「障害のある人の社会参加および地域生活を支援することができる(知識・技能)」と特に関連する科目である。また、「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」とも関連する科目である。「職業リハビリテーション学特論演習」「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

障害当事者の生活において、「職業」はリカバリーにかかわる重要な作業である。本特論では、障害当事者に対する生活支援について職業リハビリテーションの側面から学ぶ。特に、近年注目される精神障害、発達障害等の多様な特性を持つ障害当事者の職業リハビリテーションの現状を理解し、課題について考察する。

到達目標

1)障害当事者の生活における「職業」の重要性を理解し、必要な諸制度を述べることができる。
 2)障害当事者の職業リハビリテーションの現状と課題について具体的に述べることができる。
 3)精神障害、発達障害当事者に対する具体的な就労支援の方法を述べることができる。

授業の方法

配布資料と教科書による講義とディスカッションで行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題については後日コメントします。発表についてはその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 職業リハビリテーションの定義と国内外の動向	基礎と実践P1～57を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	我が国における職業リハビリテーションのシステムと課題	基礎と実践P58～72を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第3回	職業リハビリテーションの視点と流れ:アセスメントを中心に	基礎と実践P92～133、入門P140～180を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			

第4回	職業リハビリテーションに用いられる評価	職業リハビリテーションに用いることが可能と思われる評価法について列挙すること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第5回	領域ごとの就労支援①:知的障害領域、精神障害領域、発達障害領域	基礎と実践P284～291を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第6回	領域ごとの就労支援②:その他の障害と就労支援が必要な領域の広がり	基礎と実践P274～283、294～295を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>職業生活の実際:就労する障害当事者と就労支援実践者の講演1(ゲストスピーカー:就労支援実践者または当事者)</p>	<p>1～6回目の講義での疑問点をまとめること。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>職業生活の実際:就労する障害当事者と就労支援実践者の講演2(ゲストスピーカー:就労支援実践者または当事者)</p>	<p>我が国の就労支援に関する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>職業リハビリテーションの技法①:復職支援について(EAP、リワーク等)</p>	<p>基礎と実践P215～232を読むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	職業リハビリテーションの技法②:ジョブコーチ等環境への介入について	基礎と実践P134~180、入門P227~243を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第11回	職業リハビリテーションの視点①:ストレングスモデル	ストレングスモデルについてWeb等で調べること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第12回	職業リハビリテーションの視点②:就労の継続とキャリアデザイン	基礎と実践P183~214、入門P30~60を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			

第13回	発表に向けて;手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、 テーマ設定について考えること。 (60分)	自分の設定したテーマについて 調べ、まとめる。(120分)
担当教員			
第14回	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション	自分の設定したテーマについて 、プレゼンテーションの練習をす る。(90分)	講義内でのディスカッションを踏 まえ、不足していた点について 調べる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	1～14回目の講義で得られたこ とと疑問点をまとめること。(90分)	講義内でのディスカッションを踏 まえ、不足していた点について 調べる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業における態度(ディスカッションを含む)(50%)、課題(50%)
その他	0	
教科書		
職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 職業リハビリテーション入門改定第2版/松為信雄・他編/協同医書出版		
参考文献		

講義中に適宜紹介します

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		職業リハビリテーション学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	大川 浩子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」と特に関連する科目である。また、「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、多職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。「職業リハビリテーション学特論」で学んだことを基礎とし、職業リハビリテーション分野で必要となる管理・人材育成の技術を身に着けるための科目であり、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

職業リハビリテーション特論で学んだ知識を基に、具体的なアセスメントや介入方法について学ぶ。更には、職業リハビリテーションにおける組織運営やスーパービジョン、人材育成に関して理解を深め、現場管理者に求められるマネジメントスキルを獲得する。

到達目標

1)職業リハビリテーションにおけるアセスメントと介入法が説明できる(主に精神障害、発達障害に対する)。
 2)職業リハビリテーションにおける人材育成の現状と課題について具体的に述べるができる。
 3)職業リハビリテーション分野の管理者に必要なマネジメントスキルをあげることができる。

授業の方法

講義(配布資料・パワーポイントによる)とディスカッションで行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援及び管理職の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題については後日コメントします。発表についてはその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーションと職業リハビリテーション特論の振り返り；特論での講義内容を振り返り、自分の臨床疑問を検討する</p>	<p>職業リハビリテーション特論で学んだことを復習する(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問①:1回目の臨床疑問について検討する</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問①:1回目の臨床疑問について検討する</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問②:2回目で検討した臨床疑問を深める</p>	<p>2回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問③:3回目で検討した臨床疑問について文献等で検討する</p>	<p>3回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問④:4回目で検討した臨床疑問について制度の側面から検討する</p>	<p>4回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問⑤:5回目に検討した臨床疑問について再度文献で検討する</p>	<p>5回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>職業リハビリテーションに関する臨床疑問⑥:1～6回目で検討した臨床疑問についてまとめる</p>	<p>6回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>職業リハビリテーションにおける研究手法:自分の臨床疑問を解決するための量的・質的研究手法を検討する</p>	<p>7回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>リハビリテーション領域における就労支援の動向①:関連する学会の就労支援の事例に関する文献を読み、検討する</p>	<p>9回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>リハビリテーション領域における就労支援の動向②: 関連する学会の就労支援の研究に関する文献を読み、検討する</p>	<p>9回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>リハビリテーション領域における就労支援の動向③: 異なる学会の就労支援の事例に関する文献を読み、検討する</p>	<p>10回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>リハビリテーション領域における就労支援の動向④: 異なる学会の就労支援の研究に関する文献を読み、検討する</p>	<p>11回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)</p>	<p>関連する論文を検索し、読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	発表に向けて;手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、テーマ設定について考えること。(90分)	自分の設定したテーマについて調べ、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション①	自分の設定したテーマについて、プレゼンテーションの練習をする。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)
担当教員			
第15回	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション②	14回目のディスカッションを受けて修正した内容について、プレゼンテーションの練習をする。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べ、最終的なまとめを作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業における態度(ディスカッションを含む)(50%)、課題(50%)
その他	0	
教科書		
適宜講義中に配布します		
参考文献		

職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 職業リハビリテーション入門改定第2版/松為信雄・他編/協同医書出版、他は講義中に提示します。

履修条件・留意事項等

職業リハビリテーション学特論を履修していることが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		心身統合健康科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	金 京室、高田 雄一、木村 一志						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。」「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる」の達成に向けた科目である。「地域健康生活支援分野」に位置づけ、ヘルスプロモーション学を基礎に置き、身体・精神両機能を統合した広い視野に立ったより効果的なリハ技術を創生するための科目である。

授業の概要

心と身体の関係を経験的視点から探求し、脳の活性化、神経可塑性、身体意識、プラセボ効果、内部感覚などについて学ぶ。脳科学、心理学、身体論の最新知見を基に、理論と実践の両面から心身統合の理解を深める。

到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身統合に関する理論を理解し、説明できる。 2. 身体感覚や意識の変容について科学的に考察できる。 3. 心と身体の相互作用を体験し、分析できる。
--

授業の方法

<p>講義とディスカッションを交えた講義を行う。各回ごとにテーマに沿った講義を行い、最新の研究知見や理論的背景を解説する。受講生は講義内容に基づき、グループディスカッションや質疑応答を行い、理解を深める。授業後にリフレクション(振り返り)を行い、次回への学習につなげる。</p>

ICT活用

<p>Googleドライブを教員と院生が共有して文献などを保存し、同じ文献をともに読んだり、考察したりできる環境を整備する。</p>
--

実務経験のある教員の教育内容

<p>金は作業療法士として勤務した経験を活かし、心身統合アプローチについて授業を行う。木村は該当なし。高田は理学療法士として勤務した経験を活かし、心身統合とリハビリテーションに関する授業を行う。</p>

課題に対するフィードバックの方法

<p>講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。実際に体験した心身統合技法から、様々な気づきを得てその体験を院生・教員間でシェアし合い、さらに深い洞察に至る。</p>
--

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>心身統合の概念と歴史 ・心身二元論と心身一元論について学ぶ。 ・健康科学における心身統合の位置づけ ・心身相関研究の歴史の変遷</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第2回</p>	<p>脳の基本構造と能動的推論① ・脳の基本構造と機能を理解する。 ・脳が世界をどのように予測し、適応的に情報処理を行うかを理解する(予測符号化と能動的推論)。</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第3回</p>	<p>脳の基本構造と能動的推論② ・予測符号化と能動的推論について理解する。 ・慢性疼痛と感情の神経メカニズムを理解する。</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			

<p>第4回</p>	<p>脳を効果的に変化させる方法—神経可塑性 ・神経可塑性(経験・学習による脳の変化)のメカニズムを理解し、運動・瞑想などが脳の構造・機能に与える影響を理解する。</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第5回</p>	<p>身体とは何か?—物理的身体とソマティック身体 ・物理的身体(解剖学的視点)とソマティック身体(主観的体験)の違いを理解する。 ・身体感覚の変容(幻肢、ボディスワップ実験)が身体意識に及ぼす影響を理解する。</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第6回</p>	<p>運動と認知機能の関係 ・運動が脳機能に与える影響(BDNF、ドーパミン、エンドルフィン) ・運動とワーキングメモリ・注意・意思決定能力 ・高齢者・発達障害者の認知機能改善のための運動介入</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			

<p>第7回</p>	<p>私の身体と対話するー内部感覚と迷走神経 ・内部感覚(内受容感覚)について理解する。 ・迷走神経とリラクゼーションの関係を説明し、身体との対話を深める技法(マインドフルネス、呼吸法)を学ぶ。</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第8回</p>	<p>ストレスと心身の健康 ・ストレス理論(ホメオスタシスとアロスタシス) ・コルチゾールと自律神経系の関係</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第9回</p>	<p>ストレス緩和に関する研究紹介①</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第10回</p>	<p>ストレス緩和に関する研究紹介②</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第11回</p>	<p>心身統合とリハビリテーションに関する研究紹介①</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第12回</p>	<p>心身統合とリハビリテーションに関する研究紹介②</p>	<p>関連する文献を用い予習する。(90分)</p>	<p>講義内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			

第13回	受講生による心身統合に関連するアプローチ紹介①	関連する文献を用い予習する。(90分)	講義内容を復習すること。(90分)
担当教員 高田 雄一			
第14回	受講生による心身統合に関連するアプローチ紹介②	関連する文献を用い予習する。(90分)	講義内容を復習すること。(90分)
担当教員 高田 雄一			
第15回	心身統合の未来 ・これまでの講義内容の総括 ・心身統合科学の今後の研究課題についてディスカッション	関連する文献を用い予習する。(90分)	講義内容を復習すること。(90分)
担当教員 高田 雄一			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション・討論・心身技法体験への積極的な参加(60%)およびまとめレポートを評価(40%)
その他	0	なし
教科書		
必要な文献を配布する。		
参考文献		

- ・問いが世界をつくりだす-メルロ＝ポンティ 曖昧な世界の存在論- . 田村正資. 青土社
- ・生きられた身体のリハビリテーション-身体性人間科学の視点から-. 田中彰吾, 本田慎一郎. 共同医書出版社

履修条件・留意事項等

発表・討論・身心変容技法等の実体験には積極的に参加すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		心身統合健康科学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	金 京室、高田 雄一、木村 一志						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」「リハビリテーション分野の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」の達成に向けた科目である。「地域健康生活支援分野」に位置づけ、ヘルスポモーション学を基礎に置き、身体・精神両機能を統合した広い視野に立ったより効果的なリハ技術を創生するために、その心身効果の測定能力を高めることを目指す科目である。</p>							
授業の概要							
<p>近年、人の健康に向けた様々な支援や介入法・治療法が数多く考案され利用されている。これらの方法のうち、心身統合に焦点を当てた自身の関心のあるアプローチ法を取り上げ、その治療メカニズムを理解するために必要な文献研究と議論を行う。また、そのアプローチ法の効果研究に役立つ研究法や測定技術を実践的に学修する。</p>							
到達目標							

1. 心身の二元性・一元性を理解し、この分類におけるリハビリテーション科学の位置づけを説明できる。
2. 心身統合アプローチ法のうち、関心のあるものを取り上げ、その特徴や効果を説明できる。
3. 興味を持つアプローチ法について、その利用状況や治療メカニズム仮説などを説明できる。
4. 心身統合アプローチ法による効果研究の研究デザイン、評価法を述べ、その一つを使用できる。
5. 自身が関心をもつアプローチ法による心身効果を自身で測定するための実験計画を書き、発表ができる。

授業の方法

世界の心身統合アプローチ法を概観した上で、院生の興味が高いアプローチ法を選択して、その方法を調べ資料に基づき口頭発表したり、院生や家族などをクライアントとして実際にアプローチして主観的感想などを聴きとる。また、その方法の効果について文献を収集し、エビデンスの有無を調べる。選択したアプローチ法の効果研究に役立つ評価法・測定法を調べ、効果研究のための実験計画を書き、発表する。

ICT活用

Googleドライブを教員と院生が共有して文献やデータを保存し、同じ文献をともに読んだり、データの分析結果を確認し合うことのできる環境を整備する。

実務経験のある教員の教育内容

金は作業療法士として勤務した経験を活かし、心身統合アプローチについて授業を行う。木村は該当なし。高田は理学療法士として勤務した経験を活かし、心身統合とリハビリテーションに関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。調べた評価法・測定法により実験計画を作成しデータ収集し結果発表時にコメントする。考察の素地形成のために、実際に数種の心身技法を体験させる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>心身の二元性・一元性の理解とリハビリテーション科学の位置づけ ・二元論(デカルト) vs. 一元論(現象学、神経可塑性など) ・リハビリテーション科学における心身統合の役割</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第2回</p>	<p>心身統合アプローチの種類と理論 ・主要なアプローチの紹介(マインドフルネス、ヨガ、呼吸法など) ・身体心理学と神経科学の視点からの説明</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第3回</p>	<p>心身統合アプローチの実践体験と主観的評価 ・関連文献を読み、理解を深める ・マインドフルネス瞑想を実践し、集中度や感覚の変化を観察する。 ・変化を記録し、共有する。</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			

<p>第4回</p>	<p>心身統合アプローチの効果とメカニズム仮説 ・選択したアプローチの効果に関する論文を調査し、理論的背景を整理 ・代表的な治療メカニズム(神経可塑性、ホルモンバランス、自律神経調整など)を理解</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第5回</p>	<p>心身統合アプローチの臨床利用と研究事例 ・臨床現場での活用事例を読み深める(リハビリ、精神医療、健康増進) ・研究デザインの特徴を理解する(RCT、シングルケースデザインなど)</p>	<p>関心のアプローチの利用事例を調べる。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第6回</p>	<p>心身統合アプローチの評価方法 ・主観的評価(VASスケール、アンケート) ・生理学的評価(HRV、皮膚電気活動など) ・認知機能・心理評価(STAI、POMSなど)</p>	<p>自分のアプローチに適した評価法を選び、理由を考察する。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			

<p>第7回</p>	<p>効果研究のデザインを考える ・実験デザイン(前後比較、対照群デザイン、シングルケースデザイン) ・介入期間と測定項目の決定</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>自身の研究に適したデザインを考案する。(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第8回</p>	<p>実験計画の作成 ・実際の実験プロトコルの作成(対象者、介入内容、評価法) ・データ収集・解析の計画を立てる</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>簡易な研究計画書を作成する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第9回</p>	<p>倫理的配慮と研究の限界 ・倫理的配慮(インフォームド・コンセント、倫理審査) ・実験の限界とバイアスの検討</p>	<p>講義に関連する文献を検索して読む。(90分)</p>	<p>自身の研究計画における倫理的配慮を整理する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			

<p>第10回</p>	<p>パイロット研究の実施(自己実験) ・自分で選択したアプローチを一定期間(例:1週間)実践し、効果を観察 ・簡易アンケートを活用し、データ収集</p>	<p>研究日誌を作成する。(90分)</p>	<p>議論の内容を復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第11回</p>	<p>データの整理と分析 ・データの整理方法(記述統計、グラフ作成など) ・定性的データの分析(自由記述のカテゴリー化)</p>	<p>自己のデータを整理する(90分)</p>	<p>自己実験のデータを整理し、簡単な結果をまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 一志</p>			
<p>第12回</p>	<p>プレゼンテーション準備 ・研究の背景、方法、結果、考察をスライドにまとめる ・伝わりやすいプレゼンのポイントを学ぶ</p>	<p>研究内容を整理する(90分)</p>	<p>スライドを作成する(90分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			

<p>第13回</p>	<p>中間発表とフィードバック ・受講生同士で発表し、フィードバックを受ける ・改善点を洗い出し、最終発表に向けて修正</p>	<p>発表準備する。(90分)</p>	<p>改善案を取り入れた発表資料の修正する。(90分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第14回</p>	<p>最終発表の準備 ・口頭発表のリハーサル ・質疑応答の練習</p>	<p>発表準備する。(90分)</p>	<p>最終発表にむけて発表準備する。(90分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>第15回</p>	<p>最終発表とディスカッション ・研究成果の発表(10分+質疑応答) ・各自の研究成果を発表し、総括ディスカッションを行う。</p>	<p>発表準備する。(90分)</p>	<p>発表のまとめの提出(90分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の討論や実習への積極的な参加(50%)、実験計画発表会と提出物の評価(50%)。
その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		

特に定めない

履修条件・留意事項等

発表・討論、実習には積極的に参加すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		リハビリテーション科学特別研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	8
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。
 基本的研究能力を養い、修士論文作成や修士論文発表を行う。
 各専門分野の「特論」や「特論演習」と関連し、修士課程修了後のリハビリテーション研究の基礎となる。

授業の概要

リハビリテーション科学専攻領域の講義科目・演習を踏まえ、理学療法及び作業療法における実践・研究・教育を発展させる研究課題を決定し、その課題に適した研究方法を探求し、実践して論文を作成する。

到達目標

修士論文を作成し、修士論文審査会で発表を行い、審査に合格する。

授業の方法

リハビリテーション科学特別研究は、1年前期から2年後期までの通年指導を受け、論文を作成し、論文審査並びに最終試験に合格した場合、8単位を一括付与する。
指導内容によってはオンラインで行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

木村は該当なし。横井、高田、佐藤、柴田は理学療法士として、金谷、金子、白戸は作業療法士として勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について研究を指導する。

課題に対するフィードバックの方法

研究指導教員や所属大学院生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、作成した修士論文やその発表に対してコメントを行います

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第2回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第3回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第4回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第5回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第6回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第7回</p>	<p>研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。</p>	<p>研究テーマについて指導教員と 打ち合わせを行うこと。(60分)</p>	<p>さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第8回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを1年次6月末までに研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第9回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第10回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第12回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第13回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第14回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第15回</p>	<p>研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。</p>	<p>研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第16回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第17回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第18回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第19回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第20回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第21回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第22回</p>	<p>具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。 1年次12月末までに、研究指導教員の指導の下に「北海道文教大学研究倫理規定」を遵守した修士論文作成計画書を提出する。</p>	<p>具体的な研究計画を練ること。(120分)</p>	<p>検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第23回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第24回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第25回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第26回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第27回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第28回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第29回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第30回</p>	<p>研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。 1年次2月までに、研究計画を発表し、評価を受ける。 その後、評価結果に基づいて計画の修正等を行う。</p>	<p>研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)</p>	<p>発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

第31回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		
第32回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		
第33回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		

<p>第34回</p>	<p>研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。</p>	<p>予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)</p>	<p>予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第35回</p>	<p>研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。</p>	<p>予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)</p>	<p>予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第36回</p>	<p>研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。</p>	<p>予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)</p>	<p>予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第37回</p>	<p>研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。</p>	<p>予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)</p>	<p>予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第38回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第39回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第40回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第41回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第42回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

<p>第43回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第44回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		
<p>第45回</p>	<p>本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。 2年次9月までに、修士論文中間発表会で発表する。 修士論文中間発表会では研究内容を発表し評価を受ける。 指摘事項について追加実験や再分析を行い補足していく。</p>	<p>実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)</p>	<p>中間発表に対する評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>		

第46回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		
第47回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		
第48回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子		

<p>第49回</p>	<p>中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。</p>	<p>修士論文作成の準備をすること。(120分)</p>	<p>論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第50回</p>	<p>中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。</p>	<p>修士論文作成の準備をすること。(120分)</p>	<p>論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第51回</p>	<p>中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。</p>	<p>修士論文作成の準備をすること。(120分)</p>	<p>論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第52回</p>	<p>中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。 2年次9月までに修士論文の概要を研究指導教員に提出する。</p>	<p>修士論文作成の準備をすること。(120分)</p>	<p>論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第53回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第54回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第55回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第56回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第57回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			

<p>第58回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第59回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次1月までに修士論文を提出する。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>第60回</p>	<p>研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次2月までに修士論文審査会で発表を行い、審査を受ける。</p>	<p>修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)</p>	<p>審査会の評価を受けて、修士課程修了後の研究内容について熟考すること。(60分)</p>
<p>担当教員 高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、金谷 匡紘、柴田 恵理子</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究過程と作成論文及び論文の発表により評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

研究課題に関する文献を随時紹介する。

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		教育課程・方法特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
<p>①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。</p> <p>②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める。</p>							
到達目標							

①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。
 ②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。
 ③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。
 ②少人数のゼミ形式によってすすめる。
 ③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、参加者のレポートをプラットフォーム上で共有し、アクティブ・ラーニングを深める。

実務経験のある教員の教育内容

・道内公立高校に17年勤務後に、北海道教育委員会で教育行政に携わる。この間、高校のカリキュラム管理や学校経営への助言を行った。

課題に対するフィードバックの方法

・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション:大学院における授業の進め方</p>	<p>シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>・幼稚園教育要領及び小学校指導要領の意義などについて、学校教育のしくみを踏まえて検討する。</p>	<p>・学習指導要領の存在意義について調べておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>・教育における「哲学対話」の可能性を討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>・学校教育の視点で「スタートカリキュラム」の編成を検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。</p>	<p>・「保育所保育指針」を読む。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>・子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>・「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>・「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。</p>	<p>・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)</p>	<p>・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業の振り返りシートの内容(40%)、レポートの口頭発表(40%)、授業における対話、討議への活発な参加(20%)
その他	0	
教科書		
・授業内で、適宜テキストを指示します。		
参考文献		

・新版 学校を改革する 佐藤学 岩波ブックレット

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育課程・方法特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	佐々木 英明、白幡 知尋						

授業の位置づけ

①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。
 ②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。

授業の概要

この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める。

到達目標

①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。
 ②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。
 ③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。
 ②少人数のゼミ形式によってすすめる。
 ③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。

ICT活用

・Google Workspace for Educationを活用し、資料の配布、課題の提出等を行う。必要に応じて遠隔授業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。勤務してきた学校では、小中一貫した教育の推進や幼保小連携の実務担当者として、小学校と中学校や幼稚園・保育園との学びの接続について、推進役を担ってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション:大学院における授業の進め方</p>	<p>シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第2回</p>	<p>・新しい幼稚園教育要領及び小学校指導要領を、社会情動的スキルの面から検討する。</p>	<p>・社会情動的スキルとは何か、について調べておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第3回</p>	<p>・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			

<p>第4回</p>	<p>・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第5回</p>	<p>・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第6回</p>	<p>・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			

<p>第7回</p>	<p>・幼児教育における「哲学対話」の可能性を討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第8回</p>	<p>・幼児期の遊びと育ちをふまえた「スタートカリキュラム」の編成を検討する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 佐々木 英明</p>			
<p>第9回</p>	<p>・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。</p>	<p>・「保育所保育指針」を読む。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			

<p>第10回</p>	<p>・子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			
<p>第11回</p>	<p>・「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			
<p>第12回</p>	<p>・「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			

<p>第13回</p>	<p>・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			
<p>第14回</p>	<p>・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。</p>	<p>・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)</p>	<p>・授業で配布された資料を熟読する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			
<p>第15回</p>	<p>・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。</p>	<p>・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)</p>	<p>・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)</p>
<p>担当教員 白幡 知尋</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で活用するレポート内容(40%) ・レポートの口頭発表(20%) ・授業における対話、討議への活発な参加(40%)
その他	0	
教科書		
<p>・授業内で、適宜テキストを指示します。</p>		
参考文献		

- ・経済協力開発機構(OECD)(2018)『社会情動的スキルー学びに向かう力ー』Benesse
 - ・川口創+平松知子(2017)『保育と憲法』大月書店
 - ・近藤幹生(2018)『保育の自由』岩波新書
 - ・佐藤学(2012)『学校改革の哲学』東京大学出版会.
 - ・佐藤学(2021)『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』岩波書店
- その他、授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたいと思います。

備考欄

- ・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。